

## 交雑牛の部

### 農業生産法人 有限会社 和洋茨城牧場

(茨城県)

今回、交雑牛の部で最優秀賞を受賞した有限会社和洋茨城牧場は、茨城県常陸大宮市にて2,900頭の和牛、交雑牛を肥育する大規模な農場で、代表取締役の島崎和洋氏が1970年に埼玉県で創業し、福島、茨城、群馬の3県に展開する和洋グループの一角を占めます。同社は第18回全国霜降り牛研究会で優秀賞、今年4月開催の第35回横浜食肉市場ミート・フェアでも最優秀賞を受賞されており、規模と品質の両面を兼ね備えた生産者です。今回は島崎和洋代表取締役同席のもと、受賞牛を担当された川崎真人農場長(以下、川崎氏)を中心にお話を伺いました。

川崎氏は今回の受賞について「昨年よりも上の賞をとれてうれしいです<sup>※</sup>。しかも交雑・和牛の部両方で茨城県が受賞できたこともうれしいですね」と笑顔で話されていました。

受賞した牛について伺うと、普段の出荷は大体26ヶ月齢ですが、今回は28.8ヶ月齢での出荷だったそうです。選畜する際はまず、出荷時期の月齢をリスト化、次に血統を見ながら目星を付け、最終的には体形(背幅、体長、腿)を見て川崎氏が判断されました。今年は霜降り牛研究会の申込み締切日ギリギリまで悩んだうえで、少し小さいが体のしまった牛に決定されたそうで、上位入賞にける強い意気込みが感じられました。

現在のお仕事に就かれたきっかけについて、川崎氏は最初、酪農業に就職、その後、牛の肥育に興味を持ち、和洋グループに入社されたとのこと。餌や飼育環境の整備で農場の成績が変わる点に牛の面白さを感じ、仕事に熱中していく



川崎真人農場長

※注) 昨年は和洋グループの有限会社和洋牧場(群馬県)が優良賞を受賞。



左から当社関東支店 澁谷支店長、西担当、  
和洋茨城牧場 島崎和洋代表取締役、川崎農場長、大賀氏

ちに19年の歳月が経過していたそうです。普段のお仕事を通じて心掛けていることについて質問すると、「昔に比べて牛の改良が進み、増体が良くなった半面、病気や転倒などの事故は増えてきています。事故防止の為、夜間に3回の見回りを行っており、また、病気の早期発見に努めています」と答えられ、何よりも牛の安全を第一に考えていらっしゃる姿勢がひしひしと伝わってきました。農場を経営するうえでの課題についてお聞きすると、「堆肥の処理、飼料価格とエネルギーコストの高騰」を挙げられました。畜産業界全体に言えることですが、生産コストは上昇するのに、売値は変わらないのが苦しいと感じているそうです。とはいえ、取材時の川崎氏はじめ従業員の皆さんも常に笑顔で楽しそうな雰囲気。その理由を伺うと、「オーナー(島崎和洋代表、取材時78歳)が自ら現場に入って動かれているので、従業員が感化され、やる気も出ている」とのこと。これに対して島崎和洋代表は「3県の農場を経営するには、それぞれの現場に合った対応が必要。その為、社員一人ひとりが経営者の気持ちになって取り組んでもらえるように育てていきたい」と、我が子の成長を見守る父親のような微笑みを浮かべて思いを語っていらっしゃいました。最後に今後の展望について川崎氏にお聞きすると「今回の受賞牛を上回るような牛を育て、二連覇を目指したいです」と来年への抱負を語られていました。

### 和牛の部 最優秀賞 鈴木 繁 氏 (茨城県)



### 交雑牛の部 最優秀賞 有限会社 和洋茨城牧場 (茨城県)

